

江戸時代 私財投じ八雲の治水に尽力 弥兵衛の偉業たたえ銅像

江戸時代、松江市八雲町の治水に生涯をかけた周藤弥兵衛（1651～1752年）の銅像が、同町の日吉親水公園近くに設けられ、1日に除幕式がある。

（松島岳人）

親水公園近く きょう除幕 地元企業が贈与

弥兵衛は、1706年宇川の洪水から同町日吉地区を救うため、私

財を投じてのみとつちを振るい、岩山を切り開いて川の流れを変えた。「日吉切通し」と名付けられ、今ものみの跡が残る。

銅像は、高さ2・65メートル、重さ1・3ト。飯南町出身の画家、故高田勲さんのイラストを基に、のみとつちを手に開削する弥兵衛を表現した。

八雲町出身でシャッターなどを製造する小松電機産業（同市乃木福富町）の小松昭夫社長（70）が制作を決め、同社が約1500万

円かけて中国山東省の工房で制作、日本へ輸送した。除幕式で周藤弥兵衛顕彰会（矢野秀行会長、20人）に贈る。

約20年前から出版や講演会で弥兵衛を国内外に紹介する活動を続けている小松社長は「100歳近くまで働いた弥兵衛は、高齢化が進む現在でも通用する人物。故郷の偉人を多くの人に知ってもらいたい」と話している。

銅像は7月28日に高さ2メートルの台座に設置された。矢野会長（60）は「地域の住民を思いやる優しさや、困難な事業をやり遂げた意思の強さが表現できている」と喜んでい



周藤弥兵衛の銅像を見詰める矢野会長